

平成29年度 MQI 継続フォローの会 2018/3/5, 12

テーマ・チーム名/ 主体部署・参加者 (◎リーダー、※推進委員)	現在の状況 及び 今後の活動
<p>退院支援の流れを整備し、院内外の多職種間で必要な情報を共有する (シームレス)</p> <p style="text-align: center;">地域連携室・薬剤科 ◎佐藤 弘 ※金内 幸子</p>	<p>今回の活動により退院支援時の院内連携が強化され、退院時カンファレンスでは薬剤師と療法士が院外医療従事者に向け直接情報提供するようになった。現在も成果を継続し、更に発展させている。看護部業務委員会への登録ができていないため、早急に取り組む。</p> 
<p>検査について患者に分かりやすく伝える (くりとら)</p> <p style="text-align: center;">臨床検査科 ◎西浦 彩 ※中尾 和城</p>	<p>検査の情報提供資料は季節に合わせた資料に差し替えを行っている。今後も検査科広報委員が中心となり、院内広報誌の記事を有効活用し、適時追加する。検査予約票や予約センターマニュアルについては現在概ね良好に使用されている。今後、不具合等があった場合は修正していく。</p> 
<p>①外来会計における患者さんの待ち時間短縮の検証 ②品質表による医事課業務の検討 (はやぶさ)</p> <p style="text-align: center;">医事課 ◎高梨 徹雄 ※近藤 拓也</p>	<p>この活動を通じ、あらためて職員育成が重要であり大変であることを痛感した。今後も外来業務(受付、ブロック、計算)のすべてをこなせる者を育成しなければならない。また日々、人(患者やその家族)を相手に仕事をしているので、人に対する態度(言葉遣いやものの言い方)も同時に教育していく。</p> 
<p>入院患者の内視鏡検査及び検査後管理を行うための情報伝達・検査準備に関する体制の見直し (アップル)</p> <p style="text-align: center;">内視鏡センター ◎中川 舞 ※喜多 哲史 柳川 達生</p>	<p>チェックリストの改善は適宜行っているがパスやマニュアルへの反映が遅れており現在の最優先課題となっている。また抗凝固薬の扱いに関してもまだ検討中であり、早期に解決できるように取り組んでいく。</p> 
<p>入院業務継続のための災害時初動対応の体制を構築する (With T)</p> <p style="text-align: center;">看護部 ◎喜多川 るみ子 ※田村 美紀 高橋 敦子 小林 裕子</p>	<p>今回の活動で、①病棟以外にいる入院患者の安否確認 ②各部署への応援体制 ③災害時の非常食提供の3つに取り組んだ。①②はBCP担当に引き継ぎ、今回決定した流れをマニュアルへ組み込んでもらう予定である。③は、看護部・栄養科メンバーでH30.3.26に非常食提供に関する説明会を実施した。</p> 
<p>目標設定等支援・管理料の運用方法を見直す (カイリュウ)</p> <p style="text-align: center;">リハビリテーション科 ◎大橋 代 ※橋本 健太郎</p>	<p>今回の活動で医師や医事課等の他部署と協力し目標設定等支援・管理料の算定件数を増やすことが出来た。現況でもこれを継続し、業務として落とし込むことが出来ている。しかし自署可能患者を対象にしており、取りこぼしもあるため、引き続き周知徹底と運用方法の見直しを行っていく。</p> 